

いなみ虹保育園病後児保育室

レインボー通信

No.3. 2017. 6. 20発

梅雨の頃から夏季にピークをむかえる「手足口病」、「咽頭結膜炎(プール熱)」「ヘンパルギーナ」は、『子供の三大夏風邪』と呼ばれています。

加古川保健所から出されている「加古川地域の感染症情報(6/19現在)」でも、感染性胃腸炎、手足口病、溶連菌感染症、咽頭結膜炎、の順で患者数が多いと発表されていて、保育園でも感染拡大している「手足口病」を今回は特集いたします。

【 手足口病について 】

<手足口病とは>

手足口病は、口の中や、手足などに水泡性の発疹が出る、ウイルスの感染によっておこる感染症です。患者のほとんどが小児で、その半数が2歳以下です。まれに、大人の感染も見られます。

病気の原因となるウイルスは、コクサッキーウイルスA6・A16、エンテロウイルス71(EV71)です。

<感染のしかた>

感染経路は、飛沫感染、接触感染、糞口感染(便の中に排泄されたウイルスが口に入って感染すること)が知られています。特に、子供同士の生活距離が近く、濃厚な接触のある保育園や幼稚園では、集団感染が起こりやすくなります。さらに、乳幼児では原因となるウイルスに感染したことがない子供の割合が高いため、感染した子供の多くが発病します。ウイルスが違うと感染するので、何度もかかることがあります。

<症状について>

感染してから3～5日後に、口の中、手のひら、足底や足背などに2～3mmの水泡性発疹が出ます。発熱は3分の1にみられますが、あまり高くなりならず、高熱が続くことは通常はありません。ほとんどの発病者は、数日の内に治る病気です。1か月後に爪がはがれることがあります。心配しなくても大丈夫です。

しかし、まれですが、髄膜炎・脳炎などの合併症や、心筋炎、急性弛緩性麻痺などの様々な症状の出ることもあります。また、手足口病の典型的な症状が出ずに重症化することもありますので、高熱が出る・発熱が2日以上続く、嘔吐する、頭を痛がる、視線が合わない、呼びかけに答えない、呼吸が速くて苦しそう、水分が取れずにおしっこが出ない、ぐったりとしているなどの症状がみられた時は、すぐに医療機関へ。

<治療について>

手足口病に特効薬はなく、特別な治療方法はありません。口内炎に対して鎮痛剤で痛みを和らげたり、粘膜保護剤の軟膏などが処方されることがあります。

のどに痛みがある時は、オレンジジュースなどの刺激のあるものは避け、のどごしの良い少し冷たい麦茶や牛乳・冷めたスープなどの飲み物がお勧めです。食べ物は、ゼリーやプリン、冷めたおじや・豆腐など刺激の少ない柔らかなものにしましょう。

<予防について>

しっかり手洗いし、触ったおもちゃなどは消毒しましょう。便から2～4週間はウイルスが排泄されるので、オムツ交換後は手指消毒が必要です。消毒には「酸性アルコール消毒液」が有効です。(商品名:「ハンドラボ」「手ピカジェルプラス」など)

☆ ご予約・お問い合わせ ☆

いなみ虹保育園・病後児保育室「レインボー」

住所:兵庫県加古郡稲美町国安1256番地

TEL:079-490-2064(専用電話)

FAX:079-490-6682

* 詳しくは「いなみ虹保育園HP」「稲美町HP」をご覧ください。

編集:浅原

参照:加古川市HP,厚生労働省HP,サラヤHP,健栄製薬HP